多自然川づくり取組事例

タ　イ　ト　ル　：	小田川合流点付替え事業における周辺環境の保全について				
水 系 / 河 川 名 ：	高梁川水系/小田川			河　川　分　類　：	大河川
河川の流域面積：	2,670	整 備 計 画 流 量 ：	1700m3/s	セ グ メ ン ト ：	2-2
事　　　業　　：	河川改修			事業開始年度	平成26年度
目　標　設　定　：	定性的			段　　　階　　：	D（実施・施工時）
課題・目的（主な）：	貴重種、特定動植物の保全、ワンド・たまり、池沼の保全・再生・創出、外来種対策				
工　法　（　主　な　）：	護岸整備、移植、植樹				
配慮事項（主な）：	河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催				

背景・課題、目標設定

＜背景＞

岡山県倉敷市真備町では、平成30年7月豪雨により高梁川水系小田川の国管理区間において河川の氾濫等により甚大な被害を受けた。これに伴い、令和10年度に完成予定としていた小田川合流点付替え事業を5年前倒しし、令和5年度末の完成を目標に実施している。本事業は、現在閉鎖された水域である柳井原貯水池を活用し、河道化することによって高梁川と小田川の合流点を下流に付け替え、高梁川及び小田川の水位を低下させることを目的としている。

事業の実施にあたり、平成25年度に環境影響評価法に基づき周辺環境への影響を評価し、必要となる保全措置を行ってきた。保全措置対象となった植物の中でもアサザは、生育地点及び生育個体が改変されるため、工事

＜課題＞

柳井原貯水池に生息するアサザの株数が、工事によって減少しないようにどのように対応していくかが課題である。

工事が着手後に挙げられた課題が以下の通りである。

①工事中におけるアサザの生育箇所・移動方法等の検討
②付替え河道に整備する止水域の検討

＜目標＞

本事業が完了する令和6年3月までにアサザ池への移植を完了させ、住民が河川に親しみやすい空間の創出を行う。

取組内容・対策例（1/2）

1.アサザ池の設計

●アサザの環境を保全する止水域として、以下の図に示すような中堤を設けた。
●図1 に示す赤枠内が将来アサザが生息する範囲としている。
●広さは、アサザの展葉面積や個体数を考慮し、約1.5haとした。
　この広さを設けるために中堤を設置し止水域を創出した。

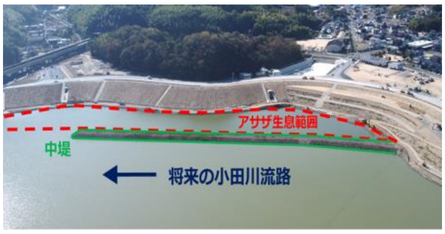

図1　アサザ池の全体図

●アサザ池内は、柳井原貯水池に生息するアサザの生育環境を調査し、それを満たすように整備を行った。
●アサザ池内のイメージ図を図2に示している。

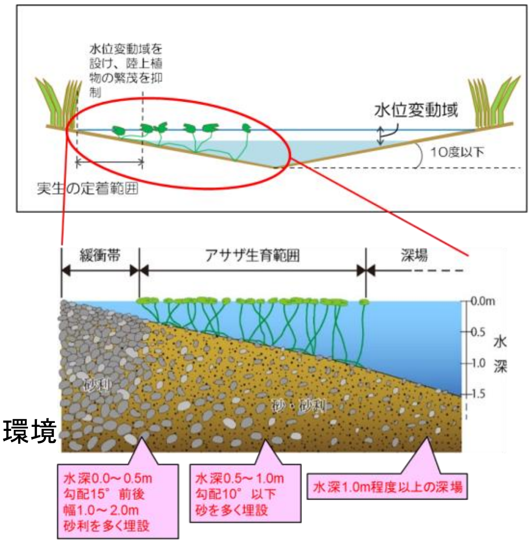

図２　アサザ池内イメージ

取組内容・対策例 (2/2)

2. アサザの移動

●アサザの生息地が掘削や埋土等の工事箇所となったため、アサザの臨機応変な移動が必要となった。
　移動箇所については以下の図1に示している。

●移動の際は、アサザへのダメージを最小限にするために以下の工夫を行い、図2に示す流れで移動を行った。

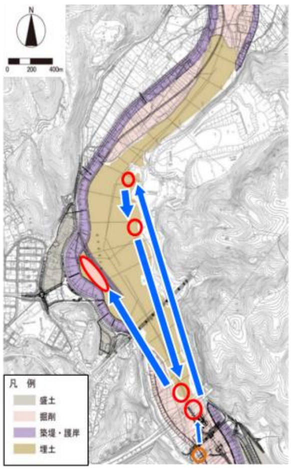

図1 柳井原貯水池内のアサザの移動

図2 アサザの移動の流れ

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜結果＞

●図3に示す箇所にアサザを配置した。

●貯水池内での移動を行っている個体は今後アサザ池の右岸側完成後に移動予定のためコンテナのまま浸漬させた。

●自生個体については、泥地にいた個体を貧栄養と考えられる箇所へ、砂地にいた個体を富栄養の箇所へ移植し、バランス良くアサザを成長させるように工夫を施した。

図3 アサザの配置

＜アピールポイント＞

●有識者の意見を参考に柳井原貯水池に生息するアサザに適した環境条件や施肥等について調査を行った。

●工事の進捗に合わせ適宜、保護移動を行い、移動の際にはダメージを極力抑える工夫を行った。

＜今後の対応＞

●引き続きモニタリング調査を行い、事業完成後の水位や環境の変化に合わせたアサザの補植や施肥等を行う。

●アサザ以外の植物を導入し、河川利用を考慮した空間の創出を行う。

●ヌートリア等の外来種の対応について検討を行う。

備考

問合せ先	国土交通省中国地方整備局高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所　工務課
電話番号	086-697-1020